

2023-2026中期計画(案)

2020-2022(年度)中期計画の報告
2023.6-2026.6中期計画実施方針

2023年事業計画(案)

NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク

2023.6.28

とちぎユースサポーターズネットワークの目的（定款より）

「この法人は、社会貢献の志を持つ若者に対して力と行動を高める事業を通じて、地域社会の課題解決や活性化を加速させていくことを目的とする。そして社会の担い手であり、新たな価値を創造していく、希望と自信に満ちた若者を輩出していくことで、よりよい社会づくりに寄与していく。」

⇒ユースのビジョン：それぞれの強みや違いを活かし、つながり合い、主体的に未来を創る行動にあふれるいきいきとした社会

⇒ユースのミッション：若者の力を活かして地域の課題解決/活性化を加速する

・ 以上を整理すると、ユースは以下のような取り組みをする組織

○ターゲット：社会貢献の志を持つ若者

○行う事業：地域社会の課題解決や活性化を目指し若者の力と行動を高める事業（若者のスキルアップ、外への関心を育む、プロジェクト支援等）

○最終ゴール：主体的に行動し、新たな価値を創造していく若者を育む

2020-2022期中期計画と重点事業評価

2020-2022中期計画の要点

基本方針(2020～2022)

アフターコロナ社会に適応するチームの在り方(社会に果たす役割、意義、事業、ビジョン、プロセス)の見直しと再構築を行い、上記の取り組むべき課題に対してアクションの実現と加速をする。

取り組むべき課題

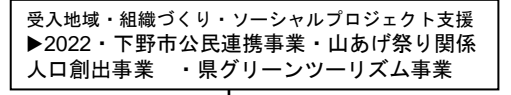
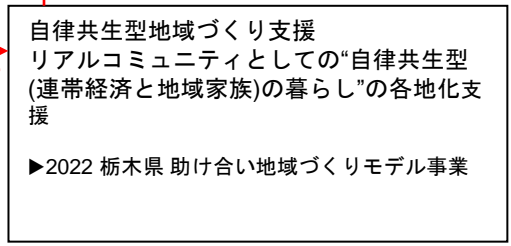
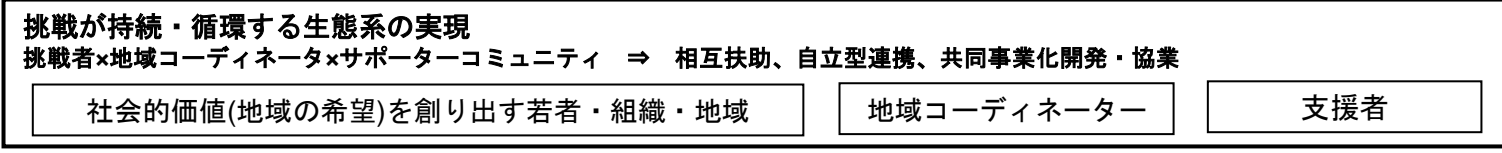
- ① 新型コロナウイルスの影響による「新たな社会像」や「次世代を担う若者・学生の価値観」の変化に即した、ユースミッション の実現に向けた事業やスキームの見直し・再構築する。特に、若者・学生が描く求める「未来の社会の姿」を丁寧に捉え、その若者の求めを中心に据えた事業スキームを変容していく。
- ② 地域間の人材還流の仕組みとネットワーク、実用性の整備
- ③ 若者の生活の安定と社会活動参画しやすい環境の整備
- ④ 「地域組織」の機能・組織の変革・介入の不足、「地域組織」と若者のコーディネート不足、エリアマネジメント力ある人材の育成・支援
- ⑤ 上記を実行していくための組織体制課題として、社内人材育成強化、ガバナンス・組織基盤の再構築

重点事業

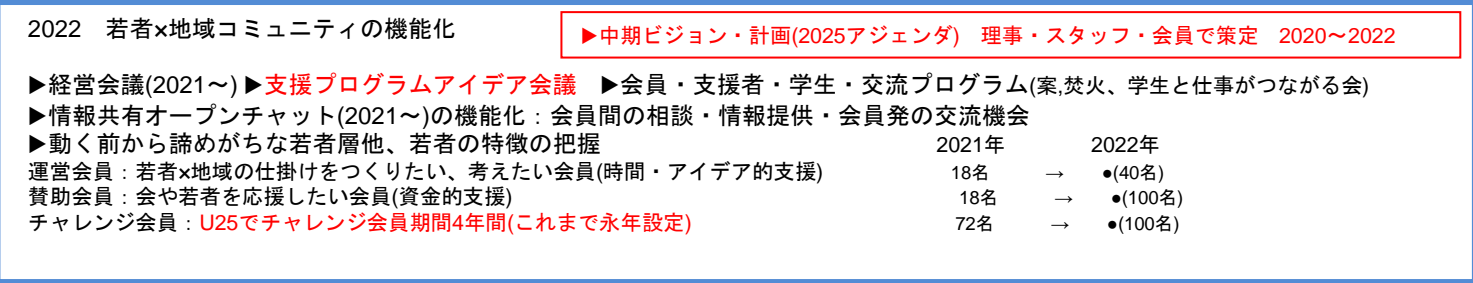
- ① コロナ禍の影響を踏まえ、これからの若者が求める社会像や機会、価値観を丁寧に紡ぎ、広く社会に発信しながら、中期計画の策定を行う(A)。またそれらの未来像に即した、必要な人物像の設定と育む力の要素設定し必要な新たな支援プログラム開発を行う(B)。また声を聞くだけでなく若者同士がこれからの未来や社会を議論していく場づくりを積極的に行っていく(C)。
- ② 社会環境に適したユース事業(「地域×若者コーディネート」に加えて「情報プラットフォーム」、「地域拠点運営とエリアマネジメント」の実行と連動)の再構築
- ③ 各地の「地域プログラム」への参加者のコーディネートと「地域コーディネーター」との連携検討(連携効果予測、連携の具体的方法)
- ④ 若者の社会参加しやすい仕組み・仕掛けの検討
- ⑤ 地域拠点を基軸にしたエリアマネジメント、コーディネートの実施
- ⑥ 社内の若手スタッフの人材育成、ガバナンスと組織基盤の再構築

ビジョン：それぞれの強みや違いを活かし、繋がり合い、主体的に未来を創る行動に溢れるいきいきとした社会

ミッション：「若者の力を活かして、地域の課題解決/活性化を加速する」の実現



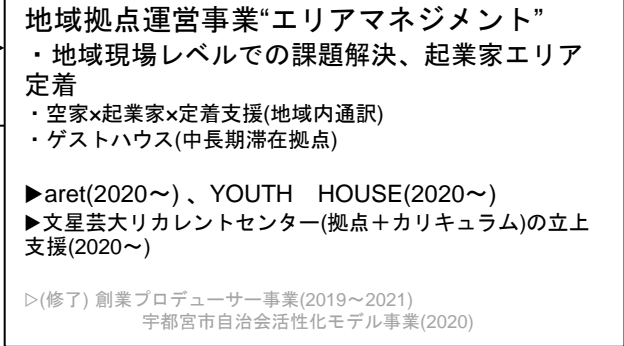
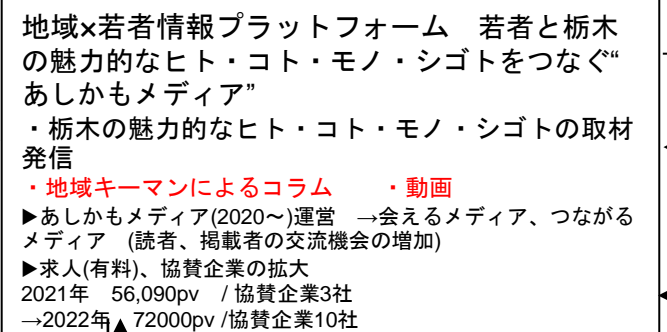
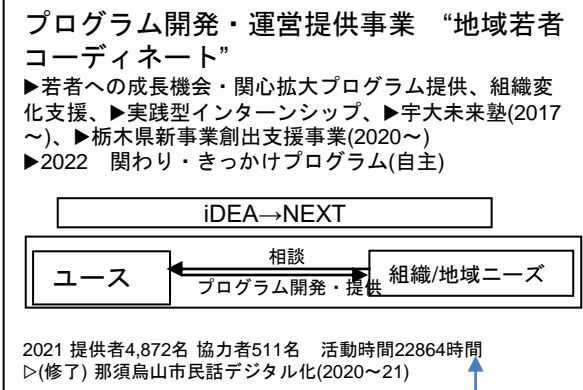
他地域への地域拠点運営支援



会員化 ▶プログラム都度呼びかけ、▶サイトリニューアル、▶SNS,メルマガ担当配置し計画的な広報展開、▶会員コミュニケーション担当スタッフの配置、▶新会費・寄付システムの導入「syncable」

寄付者獲得 若者を応援する文化と資金をつくる
 ▶寄付キャンペーン/ホンdeチャレンジ
 2,011,791円(2021) → ●(3,640,000円)2022

各地で活躍する若者と地域の変化



ユースチャレンジ基金(社会活動奨学金)
 ▶2022「星の杜中・高校」放課後支援
 ▶iDEA→NEXT活動支援金(2012~)

▶2022若者が求める社会像と価値観の把握 (2020~2022)
 意欲がある若者 / “探している”若者 県外関係人口含む

会員/支援者/協力者
 ▶情報共有オープンチャット(2021)

組織 地域住民
 地域コーディネータ

地域活動・実践者(プレイヤー)

2020～2022中期計画の総評

- アフターコロナを見据え組織の在り方、事業、組織体制の変容に挑んだ2020-2022期。新型コロナウイルスの蔓延により、「三密の回避」など対面接触を避けると同時に、デジタル技術の活用が進んだ「新しい生活様式」への変容が進んだ。同時に、関係性の構築や体験による自己成長を進めてきた当会においても、コロナ前と同様の取り組みからの脱却が求められ、新たな事業モデルづくりに挑んだ。
- これまでの地域ニーズと若者の意欲を繋げるコーディネートや社会課題に対して自ら動いていく若者の行動化支援事業や社会的な仕組みの開発運営を行うソーシャルプロジェクト支援領域は、コロナ禍においても継続また新規の取り組みが増えた。
- 加えて、新たに若者と地域をつなぐオウンドメディア「あしかもメディア」の開設、空き家等の活用も踏まえ、若者と地域とがつながり動き始める地域拠点づくり、他地域でのコーディネーターチームの育成、会員・支援者へのヒアリング等のコミュニケーションに注力した。
- また長年懸念事項であったスタッフの高齢化に対し、新卒スタッフを採用するなど組織の若返りを図った。長期インターン生は、毎年平均3名程度だったが、この3年においては、毎年平均9名の長期インターン生と活動することができ、若者(学生)へのコロナの影響の把握や、組織の若返りを踏まえ若者の願いや価値観を踏まえた事業設計と運営を進めることができた。
- コロナ禍であっても、若者をはじめ様々なステークホルダーとの関わりが広がっているポジティブな状況がある一方で、社会的期待と要請が高まり、質等高い成果を求められる業務の多様さにより、組織の管理的機能、全体マネジメントの脆弱さが露呈した。組織として若手スタッフの育成しながら社会に働きかける価値の創造に注力した結果であり、組織の攻めと守り(収支管理や会員管理)の体制バランスが課題である。また広報において、人を動かす(参画)の広報は注力したものの、メディア等を活用した社会的喚起や支援者拡大などの社会を動かす広報には手が回らなかった(職員の意識醸成にかかる時間が少なく)。

2020-2022期を経て、みてきたもの

当会の特徴、強み/弱み (スタッフ間 2023.4)

<強み>

- 何かしたい若者が集まってくれること
- 若者への情提供に加えて、参加の一步、プロジェクトへの合流(インターン)など、意欲や行動を育むことができる。
- 社会課題解決を事業として取り組む若者たちを育み、地域に輩出することができている。
- 多様なステークホルダーと連携し、新しい社会的要請に対し、プログラムを開発、運営することができる
- 会員、寄付者など若者また当会を期待し支えてくる方が増えている。

<弱み>

- 収益(事業)モデルが安定化できていない。
- 職員が定着せず、組織体制が弱い。
- 自主事業、寄付協賛など自主財源比率が低いまま。
- 経営、事業管理に集中できていない。

変えるべき社会状況(社会的課題)

- 挑戦を始める若者たちのリソース不足（応援者、資金、ノウハウ、メンター、支援者）
- 自分でも社会を変えられるという自信を持った若者が少ない
- 社会貢献の志を持つ若者（社会に役立つ何かをしたいと思っている若者）は多い一方で、実際に行動している割合は少ない
- 社会課題が可視化されていない
- 若者の参画提案ができ、若者の成長にコミットできる外部組織の育成
- 県内で育まれた挑戦意欲の高い若者が活躍の場として県外(首都圏)に出てしまう。戻ってくる、また2拠点活動など関わり仕掛けが不足。
- 若者、特にコロナ期の大学生において社会体験(他者頼られる・感謝される経験)の不足、他者と協力して成し遂げる経験の不足、他者との人間関係の希薄化、友達コミュニティの中での生活、簡易に欲しい情報にアクセスできる環境が、自分で決める力、他者の相談・協力を求める力の低下、知らない世界に出会うエネルギーを使わず目指すものや使命感など持たない(持てない?)傾向がある。やりたいことが見つけられない事に対する自己否定を持つ悪循環。社会ではイノベーションやスタートアップを求めているが、若者自身の挑戦意欲は壊滅的な状況。一方で、ごく一部の若者に限っては、起業等が就職と同等の選択肢になっている傾向も感じている(公務員志望は未だ多いが)。

若者を取り巻く現状と課題

- 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、家庭・学校以外とのコミュニケーションが激減したことにより、自分に自信が持てず将来に漠然とした不安を抱えた若者が増加しているとみられる
- 一方で各教育機関でのまちづくり参画のプログラムや地域系学部の創設などの影響により、高校生や大学生の地域活動への参加機会は増えている
- 対面でのコミュニケーション機会の減少とは相反的に、ソーシャルメディアやAIを活用したツールが充実したことにより、情報収集や情報整理について非常に優れた能力を持っている。伴って時間対効果の低い行動選択を避ける傾向も見られる。

ユースが生み出したい若者の変化

- 自分の主体的な行動や発言によって社会に良い影響を与えられることを認識することで、社会とのつながりと責任を自覚し、属する組織や社会の課題解決に向けた行動を取れる状態
- 自身の持つ可能性と社会に希望を持ち、自己実現に向けた行動選択を行うことが出来る状態

創り出したい社会変化

(以下を通して地域の課題解決/活性化が加速している状況を作り出す)

1. 当会以外の組織や個人が若者となら社会をもっとより良くできそう・何か面白いことをできそうという期待と選択し持ち、若者との関わり方が上手な団体（若者の成長と若者を巻き込んだプロジェクトの成功にコミットできる団体）が増えている
2. 挑戦する若者を育むための情報、資金、応援者、ノウハウ、メンター等が整っている
3. 社会活動を行う若者が掘り起こされていて、若者と共に行うソーシャルプロジェクト数を増加させることで、社会活動を実施する若者の数が増加している
4. 自分でも社会を良くすることができるんだと実感している若者の数が増加している

当会が育みたい 人物像とプロセス

4段階のゴール(育まれた状態)：社会の変革・価値創造への挑戦している
社会の新たな可能性や価値観づくりに挑戦し、使命感を持って動き続けている若者。
ここでいう挑戦は、起業に限らず、組織内における新たなチャレンジもさす。

↑ 伴走支援、ユース基金投下、

3段階のゴール：主体的な行動をしている

ユースのプログラムに参加する以外で、主体的に社会に良いことをするために動いている若者

↑ IDEANEXT、実践型インターンシップ、ユースチャレンジ基金投下

2段階のゴール：参加による自己効力感と自信が持てている。

プログラムに参加、一緒にソーシャルプロジェクトを実施した結果、自分が社会に役に立っている実感
を持てている。

↑ (他者と繋がる安心感、面白さ) 地域参加提案、促進。若者コミュニティ事業、若者と共に
ソーシャルプロジェクトを実施、地域と若者をコーディネート ※ここからがユースのメイン

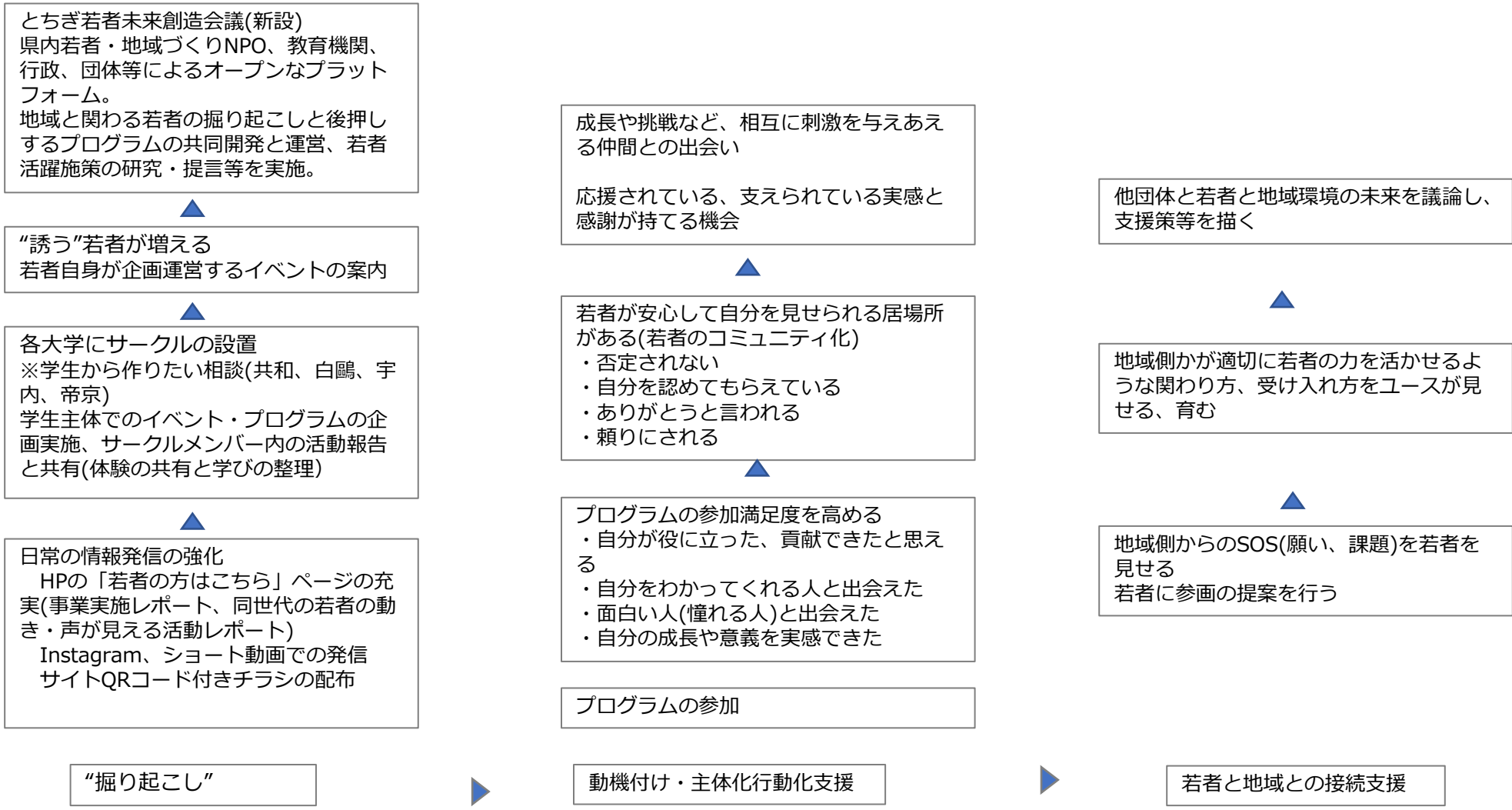
1段階のゴール：外への関心の醸成

自分以外の他者や社会に関心を向け、自分の関りをイメージできている。自分も社会の役に立ちたいと思う若者

↑ (掘り起こし)若者が強制的に参加できるプログラム。あしかもメディアの強化

0 対外的な関心を持っていない若者、自分で精一杯になってしまう若者

若者の掘り起こしから地域への送りだしまでのプロセスデザイン



何かしたいけどできない若者(大学生、社会人)

◇業務プロセスの確認

プログラム実施の流れの確認

1.地域ニーズ、学生の求め、社内アイデアの受け止め

2.企画(プログラム開発)

3.実施決定→会員に情報を投げる

4.プログラム実施における広報

(1) あしかも (2)Twitter (3)Instagram (4)HP (5)Facebook

(6)個別チャット ※個別アタックリストとの充実

(7)プレスリリース ※PRTimes(NPO利用)

(8)チラシを配る (9)大学の先生にメール ※先生のリストの作成

(10)未来創造会議 (11)学生サークルへの案内

5.実施

(1)実施中のSNS発信 (2)宣材写真を撮る

6.効果測定表、個別アタックリストに情報の記入

7.イベントレポートの作成→HPに掲載→URLを会員さんに送付

2023-2026期 中期計画基本方針

- ①挑戦する若者を育む機会の充実と支援環境の整備・充実
(若者を育むプログラムの深化、支援者の拡大と若者との融合、社会資源の蓄積と活用)
- ②若者の成長と地域への課題解決・価値創造を育むプロセスと事業モデルの確立し、他地域に若者地域のコーディネート団体が広がり、連携し、県域で若者が挑戦し、高め合う環境を整い始める。
- ③若者の挑戦によって生まれる“ソーシャルインパクト”が増幅する仕組みづくり

→簡単にいうと、ユース中心で若者を育むのではなく地域全体で育む。ユースは、挑戦する若者が成長する舞台をつくり、その舞台に登場する若者と応援する支援者を増やす役割を固め、若者が外(当会以外)でもまれて育まれるように。当会が外と繋がり、外を育み、連携し、挑戦する若者を育む。そして若者が地域を変えていく実態を各地で創り出していく。

2026.6の景色

当会スタッフ以外が、若者の挑戦支援に関わり、当会エリア以外でも、20代、30代の社会をよりよくしていく挑戦者が活躍している状態。(当会では各コーディネート機関を支える役割も検討)。

(ユースは若者と地域を変化させる(みんなが使える)インフラ的触媒)

中期計画基本方針	重点的取組	2026.6の状態・景色
<p>①挑戦する若者を育む機会の充実と支援環境の整備・充実 (若者を育むプログラムの深化、支援者の拡大と若者との融合、社会資源の蓄積と活用)</p>	<p>■若者が主体的に未来を創る行動をしている状態にするための支援機会の充実と深化 ◇明確なKPIの設定と出力数の増加 ◇社会活動を行いたい若者の掘り起こし ◇若者が参画できるプロジェクト数、参画する若者数の増加 ◇若者のプロジェクト支援(iDEANEXT、伴走支援) ◇コミュニティ形成と機能化(①若者社会接点コミュニティ、②本気育成支援コミュニティ) ◇支援者拡大と支援価値の可視化と実感の向上 ◇認定NPO法人の取得と民間企業からの支援</p>	<p>(外部)■仲間・情報・資金・応援者・ノウハウ・メンター等、社会全体から若者を応援するリソースが若者に届いている。その結果、若者の社会活動の始動、継続、発展している。 (内部)■事務局が介在するプログラムで育むモデルに加えて、コミュニティ(双発)で育むモデルを実施している。プログラム開発運営、伴走支援者の役割に加えて、コミュニティ運営支援(メンバー拡大、機能価値向上、ネットワーク構築)ができるようになりはじめている。</p>
<p>②若者の成長と地域への課題解決・価値創造を育むプロセスと事業モデル、内部体制の確立し、他地域に若者地域のコーディネート団体が広がり、連携し、県域で若者が挑戦し、高め合う環境を整い始める。</p>	<p>■内部体制の見直し等 ◇事業フローの確立、蓄積的ビジネスモデルへの転換への検討 ◇ブランディング強化 ◇組織力強化、ガバナンスの強化 ◇会員参画、コミュニティ化支援 ◇スタッフ育成(プロジェクトマネジメント、インキュベート、コーディネート、ファシリテートレベルの引き上げ) ◇チームマインドの統一・醸成 ■外部コーディネート機関や人材の育成</p>	<p>(外部)■当会に関わる若者、支援者、県内コーディネーターとのネットワークが密になり、新しい社会的要請(ニーズ)に対しても対応できる。 (内部)■社内の就労条件や環境を職員それぞれが安心できる水準に引き上げ、スタッフを拡充することができている。 (外部)■「若者と社会をより良くできそう」と期待し、若者の成長にコミットしながら、若者とともに価値創造できる組織が増えている</p>
<p>③若者の挑戦によって生まれる“ソーシャルインパクト”が増幅する仕組みづくり</p>	<p>■“ソーシャルインパクト”のための“共創”機会の創出の検討 ◇ソーシャルデザインイニシアティブプログラム(仮)の実施</p>	<p>■本気の若き挑戦者と支援者が集うコミュニティのメンバーが広がり、日常的に盛んなコミュニケーションが行われている。</p>

①挑戦する若者を育む機会の充実と支援環境の整備・充実

(若者を育むプログラムの深化、支援者の拡大と若者との融合、社会資源の蓄積と活用)

■若者が主体的に未来を創る行動をしている状態にするための支援機会の充実と深化

	具体的なアクション	KPI 2026.3時点(2023.3末)
◇明確なKPIの設定と出力数の増加		
◇社会活動を行いたい若者の掘り起こし	1. あしかもメディアの充実	Pv数 年間360,000pv (63,397pv) Twitterフォロワー数 2,000(857) Instagram 5,000(868)
	2. とちぎ若者未来創造会議の実施と拡充	
	3. 県内教育機関で実践者の講義機会拡充	県内高校(75校)の半数35校、全大学(10校)で講義
	4. 他地域でのコーディネート機関の育成、連携	他団体育成・連携実績15件
◇若者が参画できるプロジェクト数、参画する若者数の増加	1. 若者と共にソーシャルプロジェクトを実施	プログラム提供者数20,000人
	2. 若者コミュニティの運営、拡充	
	3. 若者と地域/企業/団体のコーディネート事業	
◇若者のプロジェクト支援 (iDEANEXT、伴走支援)	1. iDEA→NEXTコミュニティの機能拡充	
	2. 若者コミュニティの機能化	
	3. スタッフの伴走支援力の強化	伴走プロジェクト実績延べ40件
	4. 外部メンターの確保(リスト化)、協力の実施	メンターとの協働支援実績10件
◇コミュニティ形成と機能化	1. 若者コミュニティ(ユースチャレンジコミュニティ)	コミュニティ構成人数200(0)
	2. コーディネーターコミュニティ(とちぎ若者未来創造会議)	コミュニティ構成機関数20(0)
	3. 挑戦支援コミュニティ(ソーシャルデザインイニシアティブ)	コミュニティ構成人数200(0)
◇支援者拡大と支援価値の可視化と実感の向上	1. マンスリーサポーター、メンター登録、活動支援金の提供の仕組み化、獲得活動	マンスリーサポーター 150人 登録メンター 50人
	2. ユースチャレンジ基金(仮)の設置と運営開始 情報・資金・応援者・ノウハウ・メンターの仕組化、リソースをiDEANEXTや若者コミュニティへ投下	ユースチャレンジ基金収入 年間200万 支援実績 8件
	3. ソーシャルデザインイニシアティブのコミュニティの積極的機能化	
◇認定NPO法人の取得と民間企業からの支援		認定NPO法人の取得 企業からの協賛・寄付 200万円

②若者の成長と地域への課題解決・価値創造を育むプロセスと事業モデル、内部体制の確立し、他地域に若者地域のコーディネート団体が広がり、連携し、県域で若者が挑戦し、高め合う環境を整い始める。

■内部体制の見直し等

	具体的なアクション	KPI 2026.3時点(2023.3末)
◇事業フローの確立、蓄積的ビジネスモデルへの転換への検討	マンスリーサポーターの積極的獲得、自主事業強化と事業モデル再構築の検討	
◇ブランディング強化	ユースを外部にどう見せていきたいか整理。①若者、②会員・支援者、③クライアントやパートナー、それぞれへの認知メッセージを設定後、ユースの強み・できること・ノウハウ・育んだ若者・ターゲット等の分かりやすい言語化し、ホームページや寄付ページなどの反映し、積極的な情報発信強化を行う。	
◇組織力強化、ガバナンスの強化	情報発信強化：SNS、ホームページ、イベントレポート、事業報告→ソーシャルプロジェクトを実施した成果を発信	
	プロジェクトマネジメントの強化（それぞれのメンバーがPMできるように）	
	人員体制の拡充と職員能力の強化 →現在弱い：SNS戦略（マーケティング）・情報発信、デザイン、事務系。 ノウハウ強化・職員育成→合宿等で意識の共有を図る。	スタッフ体制8人(6人)
	プロボノの採用→プロボノを活かせる社内体制(仕様書作成、コミュニケーションツール、権限裁量の整理、意思決定プロセスの整理)、	プロボノ2人(0人)
◇会員参画、コミュニティ化支援	1. 事業進捗報告会の開催	計9回（年3回）開催
	2. 会員の日常的コミュニケーションの仕組み化。現在オープンチャット機能を→スラックに移行+オンラインコミュニケーター担当の配置	
	3. ユースタイム(会員交流会)の開催	計12回（年4回）開催
	4.活動レポートの作成・送付	年1回
	5.会員を増やす取り組みの実施	運営会員70名、賛助及びマンスリー会員200名

②若者の成長と地域への課題解決・価値創造を育むプロセスと事業モデル、内部体制の確立し、他地域に若者地域のコーディネート団体が広がり、連携し、県域で若者が挑戦し、高め合う環境を整い始める。

■内部体制の見直し等

◇スタッフ育成(プロジェクトマネジメント、インキュベート、コーディネート、ファシリテートレベルの引き上げ)	1若者との接し方、企業・行政との関わり方、社会人としての節度・マナー、コーディネーターとしてのマインド勉強	
	2ボランティアコーディネーション・協働について勉強	
	3.ファンドレイジングについて勉強	
	4.課題解決力の強化（発見～解決までのプロセスを学ぶ）	
◇チームマインドの統一・醸成	1.事業の取捨選択の判断基準についての意思統一(受けない判断をどうするか)	
	2.中期計画を元にした事業の進捗確認を都度実施→自分達の作りたい未来はどのようなもので、現在その未来に向かってどれだけ進んでいるのかスタッフ全体の共有	
	3.バリューの策定	
	4.持続可能な働き方の実行(ちゃんと休む、代休・有給を取る、健康診断に行く)。現状一人で持つ事業が多く、変わりがきかない。一つの事業の利益を高めること、またマンスリーサポーターなど支えてくれる人を増やすこと	有給取得率70%以上 健康診断受診率100%

②若者の成長と地域への課題解決・価値創造を育むプロセスと事業モデル、内部体制の確立し、他地域に若者地域のコーディネート団体が広がり、連携し、県域で若者が挑戦し、高め合う環境を整い始める。

■ 財政戦略

	具体的なアクション	KPI 2026.3時点(2023.3末)
◇事業収入の増加	1. 単価の高付加価値化	
	2. 自主事業収入の増加	
	3. スタッフそれぞれの生産性向上とプロジェクトマネジメント意識・レベルの向上	
◇寄付収入の増加	1. 認定NPO法人化に伴い、寄付戦略の策定	
	2. マンスリーサポーターの導入	
	3. 会員、理事の拡散、協力	
	4. NPO版ふるさと納税	
	5. 単発寄付から継続寄付への展開	単発寄付 100万円/年 企業協賛300万/年
	6. 企業協賛の積極的獲得、協賛しやすいコンテンツ開発(SDGs、ESG, PR)、営業資料・営業力の強化	

②若者の成長と地域への課題解決・価値創造を育むプロセスと事業モデル、内部体制の確立し、他地域に若者地域のコーディネート団体が広がり、連携し、県域で若者が挑戦し、高め合う環境を整い始める。

■外部コーディネート機関や人材の育成

	具体的なアクション	KPI 2026.3時点(2023.3末)
◇外部コーディネート機関や人材の育成	1. 県内の支援機関が集い、支援ノウハウの共有、研修、事例発表の実施	3回実施（年1回）
	2. 各地のコーディネーター育成のためのインターン受け入れ（将来のコーディネーターになりそうな学生や社会人をインターン生として受け入れる）	インターン受け入れ実績45名
	3.若者を必要としている現場（組織・エリア）からの声を、当会の受け止め、若者につなげていく仕組みづくり	
	4. (再掲)コーディネーターコミュニティ(とちぎ若者未来創造会議)のメンバーの拡充、機能化	

③若者の挑戦によって生まれる “ソーシャルインパクト”が増幅する仕組みづくり

■ “ソーシャルインパクト”のための“共創”機会の創出の検討

	具体的なアクション	KPI 2026.3時点(2023.3末)
◇ソーシャルデザインイニシアティブプログラム(仮)の実施	“信じ切れる次の社会の姿と具体的アプローチを本気で描く”ソーシャルデザインイニシアティブプログラム(SDI,仮)の実施	年1回の開催 参加機関の新たな事業創出、他機関との連携、社会施策化、実践表彰等、5件創出(0件)
	Slack等での日常的コミュニケーションコミュニティの形成(日常的な議論やアイデア・資源の情報交換等)	SDI slackコミュニティ構成人数100人(0人)

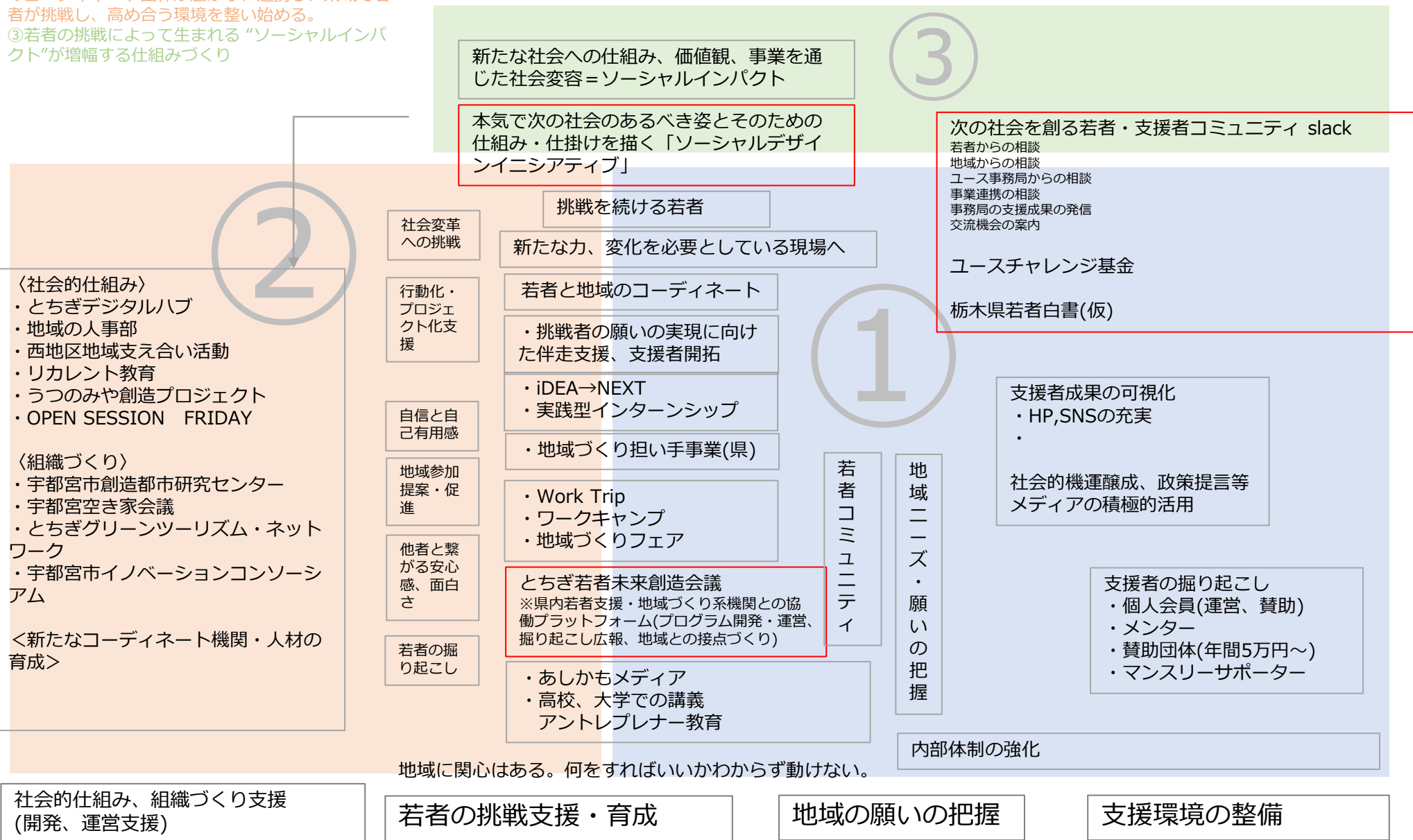
- ①挑戦する若者を育む機会の充実と支援環境の整備・充実 (若者を育むプログラムの深化、支援者の拡大と若者との融合、社会資源の蓄積と活用)
- ②若者の成長と地域への課題解決・価値創造を育むプロセスと事業モデルの確立し、他地域に若者地域のコーディネート団体が広がり、連携し、県域で若者が挑戦し、高め合う環境を整い始める。
- ③若者の挑戦によって生まれる「ソーシャルインパクト」が増幅する仕組みづくり

ミッション

若者の力を活かして、地域の活性化/課題解決を加速する

未来の景色(ビジョン)

それぞれの強みや違いを活かし、繋がり合い、主体的に未来を創る行動に溢れるいきいきとした社会の実現



2023年度事業計画

2023年の実施方針 “2023-2026中期計画の実態化”

2023年重点事業①

あしかもメディアの黒字化

①挑戦する若者を育む機会の充実と支援環境の整備・充実（若者を育むプログラムの深化、支援者の拡大と若者との融合、社会資源の蓄積と活用）

目標設定（最終目標）… 栃木と若者をつなげるプラットフォームに&実際に会えるメディアに！

◎これまで企業から費用をいただいて執筆した記事数…4件

◎2023年度目標① 300万円を目標 有料記事 年間10本(1本15万円)（※昨年度は100万程度の赤字（支出200万円程度））

目標② 年間pv数…年間10万

SNSのフォロワー…年間+300人（Instagram・Twitter）

インターン生（ライター）の合流…常時3名

売り上げを上げるために

- ①認知度を高める
- ②地域と若者をリアルにつなげる

〈アウトプット：出力結果〉

- ・記事掲載件数…月10本
- ・有料記事掲載件数…年間10本（4月～3月）
- ・（若者と掲載団体・企業の）交流会の実施回数…（ユースの全体交流会の2/6）
- ・広報物（チラシ・シヨップカード等）の配布枚数…500枚

その他、繋げるメディア、会えるメディアにするために、

*記事掲載者との交流会の実施。参加者を『あしかもの仲間たち（オープンチャット）』に招待（個別でLINE交換）

2023年重点事業②

目的別コミュニティ形成の着手と実態化

1. 地域と若者の接続や若者の行動への後押しを行うコミュニティ「とちぎ若者未来創造会議」の実現。

地域と若者を繋げるコーディネート機関の協働によるプログラムの開発運営、若者の掘り起こしの仕組みづくり。構成機関は、大学、NPO(若者支援系、地域づくり系、課題解決系)、学生団体・実践者、財団・社団、等会の趣旨に賛同し行動できる方。会則・ルールの設定の作成が必要。

ー2023年度目標 1回開催 構成機関10団体

2. ユースプログラム参加者のコミュニティ化、学生有志による各大学でのサークル活動化。

ユースのプログラムに参加した若者たちの母集団形成し、次のプログラム案内や交流会、個別の相談対応などを実施。またすでに大学の中で、ユースのプログラムを案内したら、日々のチャレンジを共有するユースサークルを作りたい相談がある(共和、白鷗)。サークルができると学生の参加一歩目が学内になるため、踏み出しやすい。

ー2023年度目標 若者コミュニティ参加者(登録者)30人 若者コミュニティ内コンテンツ2回の実施

3. ソーシャルデザインイニシアティブ(本気で社会をアップデート使用する挑戦者・支援者)コミュニティ (当会会員)

slack 等を活用し、運営・賛助会員、支援者(寄付者)など本気で社会を変えると動き、支えるが集い、日常的にアイデアへのフィードバックや必要資源の提供など、形にしてい

ー2023年度目標 ソーシャルデザインイニシアティブ(プログラム)の開催1回 slack登録者40名

②若者の成長と地域への課題解決・価値創造を育むプロセスと事業モデル、内部体制の確立し、他地域に若者地域のコーディネート団体が広がり、連携し、県域で若者が挑戦し、高め合う環境を整い始める。

2023年重点事業③

支援者拡大・マンスリーサポーターの開始

1. マンスリーサポーターターゲット・・・①公務員、②企業経営者、③ユース卒業生、④ユース講師や業務パートナー、⑤プログラム参加者・接点のある社会人

2. マンスリーサポーターでできること

(1)高校生、大学生、20代社会人が地域課題解決を求められる現場に参画することができる。

15万円あれば・・・1泊2日のワークキャンプ(地域課題解決実践型合宿)1回開催できる(約20名の参加)

(2)地域課題解決・活性化のための活動を始める支援金を提供し、新たな活動を育むことができます。

20万円あれば・・・年間1件の若者の活動の助成をすることができます。

3. マンスリーサポーターの提供価値

(1)若者の育成、支援を通じて、新たな社会的価値の創出を育むことができる。

(2)とちぎユースサポーターズネットワーク、サポーターズコミュニティ(slack?)に招待、支援した若者たちのレポートやコミュニケーションをとることができる。また若者の力を必要としている相談や募集などの投稿をすることができる。

(3)若者を支援している個人・企業としての認知を拡大することができる。

(4)マンスリーサポーターの希望者による支援審査会への参加(月3000円以上)

4. オペレーション

(1)マンスリーサポーターの募集、広報

・Facebook、オフィシャルサイト、(Google 広告)、あしかもメディア(iN卒業生の取り組みレポート+マンスリーへのリンク)

・チラシの手渡し(プログラム参加時、講師・講演時)

(2)シンカブルでの申込

(3)申込者を「寄付者リスト」へ記録

(4)寄付者感謝状の送付(A4縦、額無し)

(5)ユースコミュニティslackへの案内

(6)会員交流会、活動助成審査への案内(slack内)

(7)シンカブル支払い請求

(8)寄付者リストと突合(抜け漏れないか)

(9)定期的な活動報告(slack内で)

2023年度目標

マンスリーサポーター：15人

2024年度目標

マンスリーサポーター：50人

2025年度目標

マンスリーサポーター：100人

2023年重点事業④

ソーシャルデザインイニシアティブ(仮)の実施

▼概要・背景：iDEANEXTや実践型インターンシップ等これまでの支援プログラムから、社会の課題解決や新たな価値創造への挑戦・事業を進み続けている若者たちを輩出してきた。多様な分野、エリアでフロントランナーとして活躍している卒業生たちと一堂に会し、現場で起きていること、既存の仕組みでの弊害などを共有し、これからあるべき社会像、また仕組みは何かを議論し、逆算して何を生み出し何を変えていかなければいけないのかを新たな社会の起点となるプログラムとする。

▼ゴール状態:議論を重ね、お互いに実現したい社会像にむけて、それぞれが逆算して、今の取り組みや現場の何を変えなければならないかをイメージすることができる。(ユースは)ここでの社会像と仕組みを関係機関への提言や施策導入できるように動き、動き始める時に、ここでの仲間にも声を変え、共創で社会インフラになるよう支える。

▼対象：A案：卒業生のみでの実施 B案：A案+当会会員(理事)、支援者、マンスリーサポーターなど参加可能。C案：B案+一般参加者(有料:仮終日10,000円)

▼運営体制：卒業生たちと実行委員会形式(役割：プログラムの企画・仕掛けの設定、セッションテーマ設定、当日にむけた準備、社会的喚起・拡散)

▼プログラムイメージ：半年に一回、または年一回。9:00～19:00で実施。分科会形式と全体共有。

9:00～9:30 マインドセット(趣旨説明、参加者自己紹介)

9:30～12:30 セッション①(分科会5つ) テーマイメージ(仮)、「孤立しない地域の暮らし」、「障害を特性として捉えた働き方の実現」、「カーボンニュートラルな社会の実現に向けて」、「子どもを虐待、自殺から守るために」、「起業家が育まれる地域の生態系とは」

12:30～13:30 お昼休み

13:30～16:30 セッション②(分科会5つ) テーマイメージ(仮) 「伝統技術の現代版アップデート」、「NPO・市民活動・市民自治の未来」、「種の多様性を守る」、「人口減少が進む地域の生存戦略」、「関係人口、移住定住、その先は」

16:30～17:30 全体セッション 各分科会での報告

17:30～19:00 交流会

セッションでは、30分話題提供者がテーマに関する実態と取り組み、現場で抱える課題を発表。その後120で、参加者とあるべき社会の姿と社会的な仕組みを議論し、描く。ファシリテーターは、当会職員また理事。

▼予算 会場費 50,000円 人件費 300,000円(100時間) その他雑費100,000円 (謝金無し) 450,000円(会費、寄付を活用)

事業の種類(定款)	事業群	事業内容 (事業パートナー)	実施時期	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の支出金額
①社会事業を行う人材育成事業	実践型インターンシップ事業	実践型インターンシップ「GENBA CHALLENGE」【継続、独自】 地域の企業、NPO等の“次の手”開発を現場にした創造型インターンシップ。短期集中型、副業人材型、長期実践型をそれぞれ実施予定。	通年	栃木県内	3人	栃木県内、首都圏の大学生、若手社会人20名程度	2,213,572
	起業・創業ネットワーク事業	若者の社会をよくするスタートアッププログラム「IDEA→NEXT」【継続、独自】 社会をよくするアイデアを持った若者たちの行動化、継続化の支えるインキュベーションプログラム。	通年	栃木県内	6名	栃木県内の学生及び若手社会人6団体程度	2,045,000
	地域づくり担い手育成事業	地域づくり担い手育成事業【継続】 (栃木県地域振興課) ①担い手育成プログラム：地域づくりに関心を持つ若者等が県内の地域活動の実践者や団体の活動に活動参画し、経験を積み終了後の継続的な関わりにつなげていく。 ②担い手支援プログラム：地域づくりの実践に携わる者に対して、団体の立ち上げから安定的な運営に役立つ手法や先行事例の紹介、実践者同士のネットワークを構築するため、グループワーク等も取り入れたプログラムを提供し、継続的な活動につながる支援を行う。	通年	栃木県内	5名	栃木県内の学生及び若手社会人、地域づくり団体構成員160名程度	3,746,740
	若者人材育成	宇大未来塾「とちぎ志士プログラム」【継続】(宇都宮大学) 社会を多角的に捉え、自身の目指すもの、地域リーダーとしての素養を育む研修を実施。	通年	宇都宮大学	2名	栃木県在住または通勤する社会人40名程度	1,846,600
		宇大未来塾「次世代経営マネジメントプログラム」【継続】(宇都宮大学) 不透明で不確実な社会の中、新たな価値の創造に必要な経営的視点、戦略的思考、マネジメント能力とネットワークを獲得し、変化の加速度を高めていく次世代の経営人材・社内リーダー育成プログラム	通年	宇都宮大学	2名	栃木県在住または通勤する社会人及び経営者20名程度	1,946,000
		☆とちぎ若者未来デザイン事業「ミライlab」【新規】(下野新聞社) 29歳以下の若者が栃木に住み続けたく未来とそのため議論・実践し、提案する。	通年	栃木県内	2名	栃木県在住または通勤通学する若手社会人及び学生40名程度	2,005,040
		☆地域づくり交流会【新規、独自】 (助成：とちぎコープ) 高校生、大学生を対象に、地域づくり実践者と関わる交流会の実施	通年	栃木県内	3名	栃木県内に通学または在住の高校生、大学生60名程度	478,840
		星の杜中学校・高校学習支援コーディネート事業【継続】 (星の杜中学・高等学校) 大学生が支援者となり、中学生、高校生への学習支援を通じたロールモデルや斜めの関係構築を実施。	通年	星の杜高校	1名	栃木県内に在住または通学する大学生20名程度	1,322,416
		まちなか大学【継続】 (宇都宮市創造都市研究センター) 市内大学と連携し、大学の研究・授業内容を社会人にも提供し、学び直しを進めていく。	通年	宇都宮市内	1名	栃木県内在住または通勤する社会人40名程度	261,000

事業の種類(定款)	事業群	事業内容 (事業パートナー)	実施時期	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の支出金額
ソーシャルプロジェクト支援事業	ソーシャルプロジェクト支援	グリーンツーリズムネットワーク支援事業【継続】(栃木県農村振興課) 栃木県内でグリーンツーリズムを実践する団体で構成されるネットワーク組織を自立・運営できる体制へ育む事業 パートナー：栃木県農村振興課	通年	栃木県内	2名	栃木県のグリーンツーリズム実践団体150組程度	2,011,480
		とちぎデジタルハブコーディネート事業【継続】(栃木県デジタル戦略課) 県内の地域課題を住民がホームページに課題投稿し、その課題をデジタルの力を使い個人や企業が協働して解決に導いていく事業	通年	栃木県内	2名	栃木県ない在住者、IT事業関係者150名程度	6,075,360
		西地区支え合い活動【継続、独自】(西地区ひまわり協議体(第二層協議体)助成：積水ハウス) 地域の中学生、高校生を担い手として、高齢化、孤立化している地域住民の暮らしのお困りごとと解決を実施	通年	宇都宮市内	2名	宇都宮市内の高校生及び中学生	684,736
		☆関係人口創出プログラム【新規】(宇都宮市移住定住相談窓口ミヤカム) 宇都宮市の移住検討している単身者、家族に向けて、地域との関りや仲間と出会える関係構築プログラムの実施。	通年	宇都宮市内	3名	宇都宮市への移住検討者30名程度	1,867,557
		県スタートアップ企業支援事業【継続】(栃木県経営支援課、有限責任監査法人トーマツ) 社会課題解決の志しアイデアを持つ社会人を対象に、事業化に向けた育成、伴走支援の実施	通年	栃木県内	1名	栃木県内の創業希望者30名程度	252,000
		下野市公民連携推進事業【継続】(下野市、NPO法人青二オ) 下野市全体をキャンパスに、『シモツケ大学』や公共空間の利活用社会実験「にぎわい広場実験室(にぎラボ)」を通してまちと人をつなげる場づくりを実施。	通年	下野市内	1名	下野市内在住者500名程度	6,410,000
		ユースハウス【継続、独自】 地域と若者が関わる日常を創る拠点。シェアハウス機能と他のNPOの活動拠点として活用	通年	宇都宮市内	1名	ユースハウス入居者及び利用団体3組程度	688,000
		aret管理運営【継続】(光琳寺) コワーキングスペースaretの管理運営を行い、新たな挑戦を支える。	通年	宇都宮市内	5名		840,000
		☆うつのみや創造プロジェクト伴走支援、スキームづくり支援【新規】(宇都宮市政策審議室) U39での行政、民間と、地域の課題や施策を創る枠組みと支援策の開発運営。	通年	宇都宮市内	2名	宇都宮市内在住または通勤する若手社会人40名程度	

